

第3回 出雲市観光戦略会議

1. 開催日時

令和6年(2024)11月7日(金) 14時00分から16時30分

2. 開催場所

ラピタウエディングパレス 天雅(出雲市今市町)

3. 会議の出席者

(1) 委員(13名)

会長	田邊 達也	(一社)出雲観光協会 会長)
副会長	錦田 剛志	(万九千社 宮司)
委員	多々納 真	(株)出西窯 代表取締役)
	福岡 正純	(出雲市商工団体協議会 会長(出雲商工会議所 会頭))
	石飛 硯一郎	((有)小田温泉 代表取締役)
	石原 稔功	(出雲ホテル連絡協議会 会長)
	平井 敦子	((一社)木綿街道振興会 専務理事)
	三島 貴子	(NPO法人スサノオの風 事務局長)
	森 正幸	(株)島根ワイナリー 常務取締役)
	野津 晶巳	(一畑電車(株) 営業部長)
	渡部 稔	((有)出雲観光タクシー 代表取締役・出雲インバウンド事業推進協議会 会長)
	児玉 俊雄	(出雲市議会 副議長・環境経済委員会 委員長)
	湯浅 啓史	(出雲市議会 観光戦略推進特別委員会 委員長)
	錦織 宏	(出雲市自治会連合会 会長)
	青戸 崇年	(島根県観光振興課 国際観光推進室 室長)

※欠席者(3名) 川谷 誠一委員 今岡 真澄委員、藤江 美由紀委員

(2) アドバイザー

刀根 浩志	(出雲市観光特別顧問)
村木 智裕	((株)Intheory代表取締役・一橋大学MBAホスピタリティマネジメント非常勤講師)
福本 忠宏	(ソニーデザインコンサルティング(株))

(3) 出雲市

井上 夏穂里	(副市長)
神田 圭子	(観光交流部長)
原 哲也	(観光課長)
水 良弘	(観光課主査)
原 育也	(観光課観光政策係長)
濱崎 洋光	(観光課観光振興係長)
高橋 達充	(観光課観光政策係副主任)
立花 祐樹	(観光課観光政策係主事)
岩崎 和人	(インバウンド推進課長)
清水 あゆこ	(インバウンド推進課長補佐)

(4) 出雲観光協会

稲根	克也	(事務局長)
斎藤	謙一	(事務局次長)
長井	洋輔	(事業係長)
古島	尚	(総務係長)

4. 次第

1 開会

2 副市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事

(1) 出雲市観光基本計画素案について

5 今後のスケジュール

6 閉会

5. 会議内容

1. 開会

事務局

ご案内の時間になりましたので、ただ今から第3回出雲市観光戦略会議を始めます。

本日は、大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

議事に入るまでの進行を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

本日出席の委員の皆様につきましては、お手元に名簿をお配りしております。名簿での紹介にさせていただきます。

名簿の欄に記載しておりますが、本日、3名の委員様にご欠席でございますので、よろしくお願いいたします。また今回、アドバイザーの皆様を招いております。

2. 副市長あいさつ

事務局

開会にあたり、副市長から挨拶いたします。

副市長

失礼いたします。

本日は、大変お忙しい中戦略会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、観光基本計画の素案を提案させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。第1回、第2回会議、また第2回会議後の追加意見交換会で委員の皆様からいただいたご意見、そして本日ご出席いただいております3名のアドバイザーの皆様方には日頃から色々なご知見をいただいておりますけれども、そうした内容はこちら計画素案の中に盛り込んでいるところでございます。

それから、先日は、出雲市議会の観光戦略特別推進委員会から観光振興に向けてのご提言をいただいたところです。また、今回、後ろの方に出雲市役所の交通や景観、文化財など、様々な関係課の担当者も出席させていただいております。今回、多岐にわたる分野の計画を作成するにあたり、庁内での意見交換や議論もしてまいりまして、その結果を計画素案に反映させていただいております。

まだまだブラッシュアップすべきところや、分かりやすさというところはあるかと思いますが、本日、皆様方のご意見をいただきまして、方向性を取りまとめながら、計画の完成、そしてその実現に向けての取組を進めてまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 会長あいさつ

事務局

続きまして、委員を代表して会長に挨拶をお願いします。

会長

失礼します。本日もよろしくお願い申し上げます。

今回第 3 回目ということでございますが、2 回目の追加意見交換会もございましたので、実質 4 回目というような形になります。

今日のお手元の資料をご覧いただくと分かりますが、事務局の方の大変な努力もございまして、非常に分かりやすくまとまっていると思います。ぜひ皆様にも、忌憚のないご意見をいただきまして、いよいよ第 4 回へ向かって進みたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局

ありがとうございました。本日の配布資料の確認でございますが、本日の配布資料はお手元に出雲市観光基本計画の素案ということでお配りしております。事前に配布した資料から多少直したところ、修正したところがありますので、最新のものを本日お配りしております。よろしくお願いいたします。

本会は原則公開で開催し、資料及び議事録は、会議終了後、市のホームページ等に掲載しますので、ご承知おきをお願いいたします。

4. 議事

事務局

それでは、議事に移らせていただきます。

ここからの進行は、会長をお願いいたします。

(1) 出雲市観光基本計画素案について

会長

はい。そうしますと、予定の時間で進めてまいりたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、早速議事に入ってまいります。出雲市観光基本計画案について、事務局よりご説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

事務局

(資料 1 について説明)

会長

はい、ありがとうございました。

それでは、ここで皆様の方からご意見をいただく前に、本日初参加のアドバイザーの方から補足も含めまして、関連することにつきましてお話をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

A アドバイザー

まず、新しい観光をデザインするという意味で関わっている、I z u m o 365 のプロジェクトというのがありまして、その中では主にSNSによる情報発信やGoogle マップを中心にした情報整理を行っております。いわゆる着地型の体験をどう作っていくかというコンテンツ造成を進めており、その中で、今こちらにいらっしゃる方もご協力いただいているアイデアソンを進めています。外から出雲にもっと関わりたいという方を募集して、皆様自費で来てもらっているのですが、出雲の課題について考えるというようなプログラムを運営しております。

もう1つの柱としては、私個人の会社として、DXの実装などを行っています。私は山口県萩市出身で、隣の県ですが、同じ山陰に本社を置いて、出雲の方にはイズモノマドのオフィスに席を設けさせていただいております。

そちらの業務としては、38、39 ページにあります、現在進めている宿泊データの取得、分析です。出雲には約90の宿泊施設がありますが、全部にはご賛同いただけないので現実的には30施設程度をシステムと繋げて、個人情報を取らず、属性として出雲にどういう方が来てるのかを全面に把握する事業を進めています。

また地域OTAの利用を勧め、宿泊と体験の予約決済の可視化を進めています。特に体験の方は、出雲に来て、出雲大社に参って蕎麦を食べる以外のことがなかなか分かりづらいというか、ユーザーにしてみれば、どこでどう予約してどう決済したらいいのか分からないところを可視化して確認できるところまでをやっております。

その中で気づいていることをコメントさせていただくと、これは出雲に限った話ではなく、他県や市とも関わる中で、行政や観光協会で欠けているところが3つあると感じています。1つはIT分野、もう1つが海外ビジネス分野で、3つ目はクリエイティブ分野だと思っています。この資料の中にある今回の色々な話をお聞きして、これら3つの人材を、最終的に新しいDMOという枠組みを作るのであれば、どう内製化していくか。DMOの中に外部人材を長期的に置くという話もあるとは思いますが、一足飛びに行かないとは思いますが、中期的には、後で話しますが、この分野の方々は、割とフリーで働いている方も結構いるので、フリーランスをどう半組織化して運営していくかがまず重要で、出雲、もしくは出雲の周辺で、人材をバイネームでいかにあぶり出していくのかというのがキーだと思っています。

今回、色々ご依頼いただいて、去年と今年でやっている業務の中で、いわゆる観光業に携わっていますが、私自身、そもそも観光業の出身ではなく、メーカーに勤めていて、過

去 20 年くらい、ほとんど海外で働いていました。中国と中東と東南アジア、北京、香港、上海、イラン、台湾、シンガポール、ベトナムに行って、20 年くらい経っておりました。海外駐在員のミッションは、もちろん現地で売り上げを上げること、現地で利益を出すことなのですが、現地の人達にしてみれば、私は外から来ている人で、例えばベトナムに行っても、私たちは日本から来ている本社の人間で、外から来た駐在員の最終ミッションは、自分の後任を作らないことです。要するに、立ち上げたことは全部現地化して、自分の後任は現地の人をプロモートさせて現地の人を置くというのが最終目標と、ずっと会社から言われて、それを繰り返していました。

去年、今年と出雲に関わって、業務としては I T ツールを使ったり、それを実装したり、そういうことをしていますが、究極的にはそこでやっていることを出雲の人、もしくはその周辺の人、もしくは出雲に縁を感じて、市外から関わりたいと思っている人を引っ張ってきて、今やっていることをその人たちにダウンロードさせるというか、現地化させることだと思って取り組んでいます。

具体的な取組として、インスタや今回創設した L I N E 「出雲ファンクラブ」に触れます。これまで継続しているそば旅スタンプラリーなどがあり、そば旅は去年 3,000 人くらい応募がありました。今までの取組により、そうした顧客のリストはあるのですが、その人たちにアプローチできていませんでした。デジタル化した意味は、その人たちが L I N E フレンズになることで、その人たちに DM ができるようになり、出雲でのイベント情報などをリピーターに対してきちんと発信できるようになります。リピーターを可視化することがまず大事だと思っています。

その上で、去年今年と、地域の課題についてみんなで考えましょうという、アイデアソンを行っており、わざわざ東京や大阪から、自費でいらっしゃる方や地域の方も結構いらっしゃいます。なぜこれをしているかというと、観光を入口にして、もっと地域に別の形で関わりたいと思っている人をあぶり出しています。実際に去年アイデアソンに関わってもらった方の中で、今年数名ピックアップして、先ほど言った D X の実装などをもうすでに業務としてやっていただいています。

観光を入口に大きな網をかけた上で、その中から人をリスト化していくこと、例えば将来的に DMO の高度人材になる人材のリスト化が大事で、バイネームで可視化させて、半組織化して運営していくことが、1 番重要だと思っています。

もちろん、その人材確保にはお金が必要で、例えば、I T 人材や海外のビジネス経験のある人、クリエイティブとか、そのデザイン関係の方、お金をかければ雇うことはできるのですが、給料が 1 円でも高いと違うところに行ってしまう。私も色々な国で色々な組織を作ってきて、正直リストラもしてきたのですが、私が駐在していた国は定着率がずっと伸びていました。人の定着率が悪いところでの対策として、これを参考にするわけではないですが、一事例として、ベトナムの組織では、自分の知り合い、友達を人事に紹介して採用されたら、紹介した人がボーナスをもらえる仕組みがありました。そういう、全く知らない人が来るよりも、何か違う縁でその組織に入ると、抜けにくくなります。

出雲は外から見ると一大ブランドで、ただの観光ではなく何らかの形で出雲という地に関わりたいという方は多くいらっしゃると思います。私の周りでも「出雲にはいつか行ってみたい」「出雲の仕事してるの羨ましい」と言われたり、先週博多で飲んでいた時に、「神在月なので15日のあたりに出雲に行きます」と言われたりしました。また、私の母親の里が平田で、今回の業務とあまり関係ないところからも連絡が来たりというご縁もあります。

ご縁というのか別の形なのか分かりませんが、まちを発展させる上で、出雲に何らかの縁を感じている人をあぶり出すには、観光という広い間口はすごく有効的だと思っています。その中からどう個人をバイネームで拾っていくか、私自身が業務や仕掛けの中で人材をあぶり出すことで、今お話ししている枠組みが、地域内や関係人口による人材で埋まれば、将来うまくいくのではないかと思います。逆に、そうになっていないDMOの事例もあるので、そうはなってほしくないと思っています。

私の業務から気づくことでした。ありがとうございます。

会長

どうもありがとうございました。

そうしますと、委員及びアドバイザーの皆様からの順次ご意見を頂戴するところでございますけれども、委員の皆様には、今回、事前説明に事務局の方より回らせていただいております。その中で、式次第の中の議事に抽出してございます5項目、受け入れ基盤の充実、インバウンドの取組、DMOを中心とした観光、地域経営体制及び安定的な財源確保、地域との共同体制について、非常に多くの意見をいただきましたので、この辺りを中心にご意見いただきたいと思います。

毎回ですが、時間の関係もございます。お1人約4分以内でご発言をお願いしたいと思います。A委員につきましては、この後途中退出される予定のため、順番を1番にさせていただきます、A委員から、ご意見をいただきたいと思います。

また、発言につきましては、先ほども言いましたように、多岐にわたりますので、色々なところに飛ぶと収集がつかなくなりますので、今挙げました6項目について、または、ページを指定をしていただき、論点を明確にした上で、ご発言をいただければと思います。

そして、H委員まで行きますと、休憩時間に入りたいと思いますので、どうぞ、よろしく願いいたします。また、ご意見やご質問につきましては、お1人ずつのご発言に対応しますと、時間が大変かかりますので、おそらく共通する部分がございますので、一括で後ほどご説明をさせていただきます。それでは、A委員からよろしくお願いします。

A委員

本日所用がございまして、途中で退席させていただきますので、ご容赦いただきたいと思っております。

そういうこともありまして、1番トップバッターということになってしまったのですが、

正直申しあげますと、今回のこちらの基本計画、ほぼ漏れなく仕上がってるというのが最初読んだ時の感想ではありました。

ただ一方で、しっかり盛り込んであるという印象もあり、当然ながら計画的なものとして、この5年間で目標を定めて進めていくところで、1番気になっておりますのは、体制の構築の中の最終的な役割分担の部分ですね。ここだけが気になっており、この全てにおいて網羅された内容を、それぞれの分担の中で、作業量的な問題をどのような形で解決していけるのか気になっています。

もう少し読み込まないといけないところもあったかもしれませんが、申し訳ないですが、私自身が読んだ限りは、内容としては綺麗にまとまっていて、逆にまとまりすぎてるところくらいに思ってしまったところがありました。

ただ、先ほど申しあげた通り、全体のスケジュール感の部分と、実際の役員分担、そこにかかります皆様方も含めての負荷のかかり具合がどのような形になってくるかがまだ見通せないところがありましたので、そこだけ1点疑問点ということで、お話をさせていただきました。

B 委員

市役所の方が来てくださって、素案を見させていただきまして、ありがとうございます。先ほどのA委員と同じように、特に何かということではなく、非常によく作ってあるという印象ですが、1つ考えましたのは、将来、DMOで今の観光協会がどのような方向性になるのかという話です。昔は斐川町の観光協会があって、それが合併になって今の出雲市観光協会となっています。新しいDMOを作られることは良いことだとは思いますが、例えば斐川町の中で観光協会の理事は2人という形とか、そういう元々作られた枠の中で、今までの観光協会がそのまま継続していくことに対しては少し疑問を感じるころがあります。

今の観光協会そのままでなく、新しい「0」から組織を作るよう、今までの枠というものを一度外して、皆で新しい方向性を考えていく必要があると思います。合併してから何年も経つので、その枠というようなものはいらないのではないかと思います。そこをしっかりと考えていければ、良い方向性になるのではないかと思います。

C 委員

先日、事前説明を聞かせていただきました。ありがとうございます。

この限られた期間の中でここまで作り込まれたのは大変素晴らしいことだと正直実感させてもらったところです。

我々、商工団体としても、積極的に関わっていくところで、当然役割分担があることは自覚しておりますが、全体にこの計画を正確に伝えるには、我々ももう少し時間いただかないとなかなか伝わらないのかなということと、実際来年度からスタートするデジタル地域通貨の導入に合わせて、我々側もそのDX化をどう進めていくかという課題もあつ

て、これと同時進行で取組んでいく必要があると実感しているところです。

計画としてはほとんど全て盛り込まれていると感じました。また、アクションプランを作っていくときは、関わらせてもらえるのかどうか少し気になっていたところです。

D 委員

基本計画、素晴らしいものの出来上がったのではないかと思います。感謝というか驚いております。1つ1つに対して何か意見を言うことはないのですが、計画が策定されてきちんと行動していくことが大事かなと思っております。

それについて、安定的な財源確保というところで色々な財源確保のことを謳っておられ、もちろん色々な方法での財源確保があると思いますが、旅行者ないし、観光客の負担ということもありますので、そういう機運を醸成していくことも必要ではないかとも思っております。というのが1つ目です。

もう1点、少し細かい内容のお話だと思いますが、受け入れ体制の基盤充実について、当館の例ですが、先般、大雨が降って、日御碕への道路が一時通行止めになり、その日に日御碕をチェックアウトされるお客様を、当館で受け入れることがありました。

お客様から午前中電話があり、通行止めになったようなので、今日そちらに泊まれるか分からないというご相談で、どうしたらいいですかという問い合わせがありました。

私どもも、どうしたらいいかとお客様から問い合わせいただいても、道路がその時点で通行止めになっていることも知りませんでしたし、お答えに窮したわけですが、一旦電話を置きまして、観光協会や県の道路維持課にも問い合わせをしたところ、いつ解除になるか分からないと言われました。最終的に解除になったので、お客様は当館に来れたのですが、お聞きしていますと、お昼ご飯を食べるのが難しかったと、いつ解除になるか分からないので、結局食わず終いでいらしたという話でした。

つまり、情報共有について、色々な形で観光客に伝わる仕組みが今もすでにあるとは思いますが、より丁寧に説明する、そういう仕組み作りというものを構築いただければ良いのではないかと思いますと言いました。

E 委員

10月の出雲駅伝以降、当ホテルもそうですが、本当に100パーセントの稼働で、満室の状態です。今度神迎祭もあるということで、観光客の多い時期でございます。

先日連休に神楽殿で結婚式を挙げる県外からのお客様があり、ホテルからの送迎に渋滞で3時間くらいかかって間に合わず、途中でお客様に降りていただき、神楽殿まで歩いていただいた、そういう事例がありました。

お客様を多数お受けされるのは良いことですが、タクシーの問題やバスの減便の問題、いわゆる受け入れ基盤についても今後大きな課題になると思います。例えばタクシーは、これまで夜、例えば宴会とかがあった後のタクシーがないと言われていましたが、今は朝、例えばホテルから、市内のホテルでも、駅までタクシーを依頼しても来ない、予約もでき

ない。そういう状況になっていて、果たしてこの受け入れが今後できるかどうか大きな課題だと思っています。

先日、私もデータ収集の説明会にホテルのフロントの責任者と一緒に出席させていただいて、地域OTAについてはまだ理解が十分ではないですが、いわゆるホテルでは、当ホテルもそうですが、8割ぐらいは大手予約サイトからの予約で、これから地域OTAで予約していただくことが本当にできるかどうかというところがあります。

素案を見ますと、田辺市が地域OTAを導入していて、実際どのくらい地域OTAが使用されているか、そういうデータも分かればまた教えていただきたいと思います。

F 委員

計画全体を読ませていただいて、この計画は、ただお金をかけさえすれば数値目標等を達成できるものではなく、どんな人材がどんな思いを持ってこの計画を実行していくのか、これにかかっていると強く感じました。

そういった時に、観光業界の雇用のことを考えると、やはり繁閑差が大きすぎて、良い人材を正社員として雇用して根付かせていくことがすごく難しいと日々思っています。

忙しい時に合わせて人を雇うと、暇な時には全然給料を払えないことになるので、そうするとパートでの雇用になってしまい、働いてる人の立場がすごく弱くなっていきます。

そういう意味で、計画を見た時に、オフシーズンと誘客強化シーズンの対策に対する言及が少し弱いのではないかと感じました。やはり、良い人材を年間通して確保していきたいと思っているので、その対策について、また観光業界で働いているスタッフの皆さんがいつでも安心して働いていけるような形にこの計画が役に立っていくと良いとこれを読んで感じました。

それからもう1点ですが、49ページのB-2の守るべき資源文化の継承と価値の再認識というこの項を設けていただいたことは、木綿街道も皆、歴史や文化、町並みを大事にしながら観光振興を続けておりますので、とてもありがたいと思い、この章を読みました。

木綿街道については、「専門家の意見を踏まえた上で重要伝統的建造物群保存地区制度の導入可能性を検討します。」という一文を入れていただいて、感謝しております。ただ、導入可能性を検討しますというより、もう少し前向きな文言をいただきたく、導入可能性を検討して、ダメだったら何もしないというようなことになると、とても悲しく、前に進むのを断たれたような、そんな思いがしました。

木綿街道が重伝建に選定されることは、木綿街道にとってだけではなく、出雲市の観光や、平田地域の観光、定住、空き家対策など、そういった他の分野についても、ものすごく効果のあることだと思っています。

また、木綿街道、島根県の重伝建、他の津和野や銀山、それから候補地としての美保関、そういうところと比べれば、出雲大社から30分、出雲空港からは15分という、他に比べて地の利がとても良い場所です。出雲大社に来られた多くの観光客の中で、町並み観光に興味のある方は、これまでは石見銀山の方に流れていたと思います。もし木綿街道が重伝

建に選定されれば、これまで石見銀山に流れていた観光客が出雲市内で消費をすることになり、宿泊も行われることになると思うので、導入可能性を検討しますという文言をもう少し前向きな文言にさせていただけると大変嬉しいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

G 委員

私の方からは簡単に申しあげたいと思います。

非常に美しい基本計画素案であると思います。ただ、先ほどB委員もおっしゃられたように、DMOを形成するにあたって、観光協会の内部もそうですが、関係各所、本日も市からたくさん関係の方がいらっしゃっていると思いますが、横串的な展開は非常に必要になってくるもので、そこが1番難しいところだと考えております。今まであったものをもう一度再構築するような動き、働きになると思われまので、内部の方で難しければ外部の方を使っていただいて、この美しい基本計画にあった観光、出雲市になればいいなと思います。ただ、内部的にはすごく難しい、ややこしい大変なことだとは思いますが、観光客にとってはすごくシンプルでスマートな観光が求められると思います。今作られているLINEツールであったり、非常によろしいと思いますので、大変だとは思いますがご尽力いただければと思います。

H 委員

今回、出雲市観光基本計画を見させていただきまして、非常にページ数たくさんありまして、正直言って細かいところは見ていないですが、ざっくりと先ほど皆さんおっしゃる通り素晴らしいと思いました。

ただ、やはり1番心配なのは、これが実際できるかどうかで、特に32ページに数値目標が出ておりますけど、これも根拠のある数字で、達成できるかを本当に考えてあるのか若干心配しています。

単純に1番思うのは、前回も言わせていただいたインバウンド、それほど伸びていないです。国内旅行が減った分、なかなか増えない部分に対して、プラスになっていくのかどうか、その辺が本当に検討した数字なのかというのが若干心配になっておりますし、それから、来訪者の満足度が出ているのですが、これは全体の観光地と比較してどの辺のレベルなのでしょう。その辺も全く分からないもので、この約80%という数字、それが全国観光地と比べてどうなのか。もっと高くする必要があるのか、それとも他観光地の方が低くて出雲は良いのか。そういうことははっきり分からない。そんな中の80%で、根拠がよく分からない問題があります。もちろんこの基本計画がうまくいくのが1番良いと思いますが、それもよく考えて実施いただければと思っております。

会長

どうもありがとうございました。そうしますと、先ほどご案内申しあげましたように、

一旦区切りとさせていただきます、ここまでのところを前半として、今皆様からいただきましたご意見、ご質問等につきまして、それぞれ事務局、アドバイザーの方でお答えをいただきたいと思いますが、若干、私から皆さんの意見の中で気になったところを申しあげたいと思います。

やはり、この非常に手間をかけて非常に立派な計画ができているという皆さんのご意見もありましたし、逆に、H委員のように、その内容についてどこまで深掘りされているのかという実態、お客様と日々接していらっしゃる立場として、その温度差があるというようなご意見があったと思います。

それから、やはりこの計画を実際に実行する上においての問題が1番気になるというところでもございましたし、それから、受け入れという言葉の中では2つあったと思います。1つは、よく言われる観光地の危機管理ということですね。今回の日御碕の問題もございませうけれども、何が起きるか分からない、その時の危機管理はどうなっているのかというのと、反面、E委員さんがおっしゃいましたけれども、サービスの受け入れ体制としての、日々ホテルで多くの全国からのお客様をお迎えする立場として、本当に行き届いたサービスができているのかというようなご意見ございました。

それから、OTAにつきまして、成功例もございましたけれども、地域OTAとOTAの違い、そういったことについて、今1つ分からないというようなことがございました。

それから、オフシーズンの対策が少し弱いのではないかと。計画上ももう少し積極的に取り組む姿勢があってはどうかというようなところ。

それから、大事なこととして、こういう計画は観光客の目線で立てていくべきであろうと。そして、もう一度言いますが、これを実行するアクションプランはどうなるのかというところが私の気になったところです。事務局でも聞き取っていらっしゃいますし、アドバイザーの方も聞いていらっしゃいますので、これについて順次ご回答なりご説明をいただければと思います。

事務局

ありがとうございます。それでは、概ね順番に少しずつコメント、今できる範囲でさせていただきます。と思います。

まず、役割分担や今後の負担、作業量の点ですが、アクションプランを作成していく中で、5年間の中で、全てを令和7年度から始められるものではないと思っております。まだ先の方向性が見えていない施策もあると思いますので、その辺は、下準備の期間も必要であったり、あるいは現在やっている事業を1回整理して、改めて今一度、今何が求められているのかを考え直す、棚卸しという表現がありますが、そういったことも大事だと思っております、できる範囲内でできる限り取り組むという姿勢であります。

それから、DMO、旧来の協会の枠組みを外して「0」から検討すればというようなご指摘につきましては、基本的にそういった方向性が必要だと考えておまして、70ページの観光地経営体制の構築のところ、実質的なDMO化に向けた検討の中で、組織、目

的、事業、理事会、事務局、会員制度、財源等について幅広く検討と、ほとんど全てについても一度検討し直すということを記載しており、そういった姿勢で考えております。

そして、アクションプランについて、商工団体と関われるのかというお話ですけれども、アクションプラン自体は、単年度の事業を定めていく部分もあり、基本的にはオープンに意見を得て定めるというような計画とは少し違うかとは思いますが、具体的な事業を決定していく段階において緊密に皆様と相談しながら進めるということだと考えております。

それから、全体に伝えるのには時間が必要でしたり、これを宣伝して実現していくことが大事というご意見もございました。計画内の文字を可能な限り、減らそうとは思っておりますが、分かりやすく説明するためのバージョンも相手に応じて作成しながら理解、調整を進めていくことを考えております。

それから、先ほど会長からもございました危機管理の部分につきまして、日御碕のお話もございまして、直近の事例でもあり、その点について改善していかなければいけないと思っております。

また観光危機管理、今後の観光振興においては観光危機管理ということが元々非常に重要な取組内容となっている中で、その辺書き込みできてない部分がございますので、今回のご意見も踏まえて、しっかりと位置付けをしていきたいと考えております。

それから、渋滞対策、タクシー等の2次交通につきまして、まず渋滞対策については、今年度、データに基づいて必要な渋滞対策を毎年カウント、経験ではなくデータに基づいて出していくようなモデルを構築しようと考えております。それに基づいて、次年度以降できる限りの渋滞対策を進めてまいりたいと思っておりますし、新たな駐車場の整備についても検討していきたいと考えております。

それから、タクシー、バス等につきまして、こちら、地域公共交通計画の取組紹介でも、様々な運転手確保対策や非常に難しい問題の中で、できることを何でもやってみようというくらいの気持ちで、観光課と交通政策課が一緒になって検討し、少しずつ進めていくところではあります。少し田辺市のDMOの事例をつけさせていただいて、そこでは、交通対策について、DMOと行政、そして事業者が一緒になって検討して改善を進めているという事例を掲載させていただきました。

今でも地域公共交通会議で関係者が参画する場面はありますが、観光も含めた検討はもう少し事業者を巻き込んでできたら良いのではないかと考えており、そういったところも、皆様方からも提案やそういった検討しようというような動きも今後あったらいいのではないかと感じているところです。

それから、地域OTAについて、39 ページに田辺市の事例で、宿泊客数が32万人の中でこの予約システムを使った宿泊予約件数が約1万件ということで、32万分の1万の割合になりますが、1万件がここから予約されているということで、こちらは旅行者にとっての利便性や様々な手配を一括でするような、より高度なシステムになっておりますが、一定の効果があるのではないかと考えております。

また、地域O T Aのメリットを、39 ページの取組紹介のところに黒丸で3点掲載させていただいていますが、大手の予約サイトに比べて低コストで掲載できる、要は手数料が低く決済できるというところが直接的にまず分かりやすいメリットで、かつ、その掲載手数料が大手、東京などそういうところに出ていくのではなくて、観光協会に入りますので、その観光振興に役立てられる、地域内で経済が循環するという点がメリットだと思っております。

また、そのデータというものを、地域全体や各事業者において効果的な誘客などに活用していくことができること、あとは、そもそも小規模な施設や個人さんの場合、宿泊にしても体験にしても、予約決済システムを整備すること自体が難しいという課題もあると思いますので、その辺をプラットフォームとして整備するという意味で、施策の推進になると考えております。答えきれているかどうか分からないので、また何かあれば再質問をお願いいたします。

それから、オフシーズン対策につきまして、繁閑差というところ、最初の出雲市の観光動向のところでも、縮んできてはいますが、今でも最多と最小値で3万人の違いがあるので取り組んでいかないといけないということを示しておりますし、先ほどの数値目標においても、繁閑差、繁忙期に占める閑散期の割り合いを上げていくことを目標としており、目指さなければいけないということは非常に優先順位高く思っております。

ただ、ご指摘の通り、少し施策の書き留めにおいて表現しきれていない部分があると思いますので、検討したいと思います。

それから、木綿街道の重伝建のところですが、事前送付時点で書いてあったかと思いますが、専門家の調査が延期になってしまったこともあり、本当は調査を踏まえてもう少し接続記載ができれば考えようと思っていたのですが、まだできていない中で、今一旦こういう形にはしておりますが、それが仮にダメだったとしても、景観計画や様々な関連する制度がございますので、そうしたものも活用して、いずれにしても、町並み環境を1つの魅力として進めていくような取組はしっかりやりたいということ、もう少し検討させてください。

今後、横串的な展開につきまして、皆様方がご理解、ご協力、推進力も期待しつつ、庁内連携して取り組みを進めていきたいと考えております。

数値目標について考えられているのかというご指摘ですが、全てについてご説明する時間が足りないですが、例えば、宿泊客延べ数の100万人について、総合振興計画の前期基本計画の目標値として100万人があったのですが、これを本当に実現できるのかどうか分からないというのも実際ありました。そこで、まずは宿泊施設の収容人数や定員稼働率の現状値を算出した上で、どうすれば100万人が達成できるのかという試算をしまして、仮に6,000人や45.7%を出してみたところですが、これが現実的に可能なのかを確認するために、旅館とホテルにいくつかヒアリングをさせていただきまして、100万人を何とか目指したいと考えております。実現性のあるチャレンジ目標だと考えております。

それから、消費額単価について、出雲市の消費額単価は非常に低く、特に日帰りが低く

なっています。特に土産などの物販部分が非常に少なく、しかも全体として観光消費額が減少してきているという非常に残念な状況がございますので、全国値との比較も踏まえて、100 円アップを目標にしたいと考えております。例えば平均訪問箇所数の 0.05 ポイント増にどこまでの根拠があると言われると説明しづらいところがあるのですが、できる限りどうやって目標を達成していくのかも念頭に置きながら今回の数値目標を考えていたところでございます。

観光客目線ということにつきましては、足りないと言うと言い過ぎですが、強化すべきところと考えていまして、地域と連携した魅力の磨き上げの戦略の中で、そうした観光客目線に立って魅力の伝え方や価値の提供の仕方を今一度改めて見直して、ブラッシュアップすべきであるということを記載させていただいているところでございます。

私から今できる範囲のコメントは以上とさせていただきます。

B アドバイザー

危機管理の話はごもつともなので、計画に記載されたら良いと思います。

いわゆるクライシスマネジメント、クライシスコミュニケーションというのは、観光専門のマネジメント組織の重要な役割の 1 つで、その時にどういう対応をしていくのかということは、今回の計画の中で記載されたら良いと思います。

基本的に安全確保から復旧のタイミングまでの役割と、観光地として復興していくタイミングにおいて、役割は色々あると思います。特に前半は情報発信、安全確保に本当に必要な情報を旅行者に速やかに提供する。その時に忘れられがちな海外の方への情報発信も含めてやるということです。

あと、復興段階であることは、復旧段階でもそうですが、ここはダメだけど、ここは安全というような情報を流すことが必要です。

私は瀬戸内DMOにありましたけれども、確か7、8年前に西日本豪雨で色々なところで床上浸水が起きた時に、倉敷のエリアで 1 集落の区画が全部水浸しみたいなことがありました。それが海外に流れて、倉敷は観光地として終わってしまったのではないかと思います。そんな情報が海外では流れてしまい、問い合わせがDMOに殺到するということがありました。倉敷の美観地区と、他のエリアは距離もありますし、そういう情報が正しく流れれば、そのような心配はないです。なので、そういう情報をきちんと流していくことも重要な役割だということ、その点は入れられたらいいかなと思います。

事務局

言いそびれたところがありまして、数値目標の観光客の満足度のレベルの話ですが、実は満足度は統一した調査が行われておらず、公式な情報としては分かりません。ただ、民間調べというのはいくつかございまして、1つの例で言いますと、県単位の満足度で島根県が 10 位ということが、どこかの調べか忘れたのですが、出ております。

80%というのは、満足度はある程度、すごく低いところはなかなかなくて、割と高い数

字が並ぶのですが、その中でも10位ということや、今の現状がすごく悪いということではなく、現状水準以上を着実に目指す、維持し続けることが大事だと考えているところです。

B アドバイザー

地域OTAの話です。これ、地域OTAの話である前に地域DMCの話です。

観光地としての観光地特化型の旅行会社という、そういうイメージです。そうすると、地域の隅々のことが分かりますので、大手のDMC（旅行会社）では扱わないような、ユニークな商品やチャレンジングなルートを作ってみようとか、そういう、その地域に密着した活動ができるという意味で、大手のDMC（旅行会社）、大手のOTAがカバーできないようなことをする役割というのも、まず1つあると思います。多分、大手だけに任せていると、売れるところしか売らないと、出雲でいうと出雲大社周辺エリアしかロットに出ないようなことが起きがちですが、地域DMCの役割はDMOと一体となって、そういう少し手の届かないところに手を伸ばしていくことができる存在なので、作られたら良いと思います。仮にそれが1割、何なら数パーセントだとしても、そのデータが手に入るのは非常に貴重な財産で、そういう副次的なメリットもあると思います。

会長

どうもありがとうございました。そうしますと、前半の分、これで終わらせていただき、10分間の休憩の後に後半に入ってまいりたいと思います。よろしくお願いします。

事務局

休憩中にすいません、52ページのふるさと出雲の魅力を発信する次世代の育成のところで取り上げております、小学校の社会科の副読本をお返しします。ご確認いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

—休憩—

会長

そうしますと、後半に入りたいと思います。同じように、前半の部分でも、まだ話や意見が足りなかったところもあったり、いろいろあると思いますので、お一人様4分を厳守いただき、項目をある程度絞り込んで、時にはページを指定してご発言いただければと思います。それでは、I委員からよろしくお願いします。

I 委員

私はインバウンドのことと、交通事業者としての視点もありますので、全体的なところ

と事業に関わる場所をお話させていただきます。

まず、具体的な目標値について、32 ページに今後の入込客延べ数など、目標について掲げてあります。JRのやくもが新しくなり、人気だと伺っています。その稼働率なども見ていくことになると思います。

関東圏域からの客数もかなり多い一方で、JALなど日本航空の方針で、飛行機が小型化されていく状況があり、入込客延べ数に今後影響が出るのではないかと考えています。

そのため、車で来られる方が増えると渋滞対策が急務になります。飛行機利用の方は、今後、数年間で270人乗れる飛行機が160人から180人程度になることが予想されるため、移動手段の確保も含めて、入込客延べ数の目標数値について今後の精査をお願いしたいと思います。

次に、33 ページについてですが、私は以前から申しあげているように、Dの人づくり戦略が今後の観光の肝であると考えております。素材については、我々の地域にとっても非常に価値があるもので、日本でも最も古い歴史があり、素晴らしい資源が多く存在します。それを結びつけていけば、日本一の観光地になると信じています。この人づくりの部分で、誰がどのように関わるかが今後の重要なポイントになると考えますので、しっかりと検討を進めていただければと思います。

それから、やはりこの計画についてですが、この計画に基づいて「誰のためにやっているか」というと、観光に来られる方々のために行っているわけです。しかし、今のこの地域が果たして「優しい観光地」かと言うと、先ほどから話が出ていますように、タクシーが不足していたり、我々交通事業者として、耳が痛いところでございますが、今後、こうしたDMOが設立されれば、現在の観光協会や観光課の方々、また交通関係の方々とも連携して、短期的な交通対策ではなく、今のUberやシェアカーなど、さまざまな新しい交通手段も含めて、比較的短い期間で真剣に取り組んでいきたいと考えています。そのような観光の形ができれば、観光に来られる方に不便がない形で提供できるのではないかと期待しておりますので、どうぞよろしくお願いします。

次に、インバウンドについてですが、目標値がかなり高い数字で設定されています。この高い目標を達成するために、近隣のホテルが十分であるかどうかにも検討が必要です。時期によってはホテルが不足する問題も生じていますので、ターゲットを絞りつつ、具体的な対応を進めていくことが重要です。例えば、現在、私の担当エリアでは台湾やフランスの地域に焦点を当てておりますが、昨日はスイスとフランスからの方々をご案内しました。今日もフランスの方が12日まで滞在される予定で、歴史に非常に興味を持っています。特に神迎えの映像をご覧いただき、その時期に合わせて来ていただくことができました。こうした内容を丁寧に伝え、興味を持っていただける地域をターゲットとし、インバウンド誘客策を進めていきたいと考えています。

以上で、私からの発言は終了とさせていただきます。ありがとうございました。

J 委員

この計画を拝見し、「本当に全部乗せの計画だな」と思いまして、やらなければならないことが本当にたくさんあるなというのが感想でございます。

出雲市の場合は、合併して、それから遷宮があって、急に観光都市になったような感じでございますが、基盤整備やおもてなし環境についても、まだまだだと思っております。真の観光都市になるためには、これからしっかりアクションプランを作って、この計画に盛り込まれた取組を一つ一つ実施していく必要があると感じたところでございます。

具体的な話といたしまして、まず 43 ページの「魅力の磨き上げ」という部分ですが、特に「食」の部分について、私も何回か議会の質問で、食の重要性について取り上げたことがございます。観光において、やはり食の楽しみというのは非常に大きいものだと思います。出雲市にも出雲そばやぜんざいなどの名物がありますが、まだまだ、様々な食材があり、それをどういうふうにして「食の魅力」を高めていくかという記述が、少ししか記載されていない部分が気になっております。この点について、具体的な提案はできないのですが、ぜひしっかりと検討していただけたらと思います。

それからもう一つは 63 ページについてですが、私もかねてから申しておりますように、やはり出雲大社が観光の中心でございますので、まずこの満足度をしっかり上げて、リピーターを多く獲得しなければならないと考えております。リピーターが増えることで、初めて市内に周遊客がどんどん増えていくのではないかと考えております。

また、先ほど副市長からも少し触れられましたが、旅行の満足度やリピーター率の調査について、県の観光動態調査や、出雲市もQRコードを利用したWEB調査などを行っていらっしゃると思いますが、この調査をもっとしっかりと行い、それに基づいてさまざまな対策を講じていく必要があると思っております。以上でございます。

K 委員

この基本計画についてですが、出雲市の観光基本計画である以上、出雲市全体の計画として捉えるべきです。大小さまざまな観点がありますが、一般財源を投じて観光振興を行うためには、観光業界に関わる一部の業者だけが関わっているのでは不十分だと感じます。広く、観光が出雲市の経済を引っ張っていくようにリードし、他の産業にも波及効果を与えるような形にしていかなければならないと思います。出雲市にとって非常に大きな部分だと考えています。

その理由は、やはり観光は大きな経済効果を生む分野であると期待しているからです。断言はしませんが、その可能性があると考えています。

先ほど触れたように、30 ページには目標人数や実際の金額が書かれていますが、この目標がどこまで具体的に詰められているかが気になっているところです。リードする産業であるからこそ、出雲市独自のバックボーンを持つことが必要ではないかと思います。J 委員もおっしゃっていたように、市独自の観光動態の把握が求められます。

さらに、全体の産業の中で観光がどのような位置づけになるのかも重要です。例えば産業連関表を作成し、出雲市の産業構造や観光が経済にどう影響を与えるのかを把握する

ことが必要です。観光業で「風が吹けば桶屋が儲かる」と言われるように、その経済効果の説明が求められます。

関連して、76 ページの「財源確保」についても、目的税の導入が検討されていますが、これも住民の方々にしっかり説明し、納得してもらえるようにしていく必要があると感じます。

観光分野だけでなく、他の経済や産業政策とも連携して取り組んでいく必要があると思います。観光分野は今後の出雲市の経済にとって期待できる分野と思っています。しかし、単に観光客が増えれば経済が向上するという漠然とした期待だけではなく、明確な根拠が必要です。市がその答えを示せるようにすることが大切だと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。以上です。

L 委員

私は地域から見たお話をさせていただきたいと思います。74 ページの「地域と協働体制の構築」という項目についてですが、地域には非常に魅力的な場所や、まだ埋もれているような場所がたくさんあると思います。新しい組織ができた際には、そうした場所を掘り下げ、戦略的に取り組んで観光事業につなげていただければと思います。

さらにもう一つ申しあげますと、地域は観光の受け手としてうまく機能していない部分も多々あるかと思いますが、取組紹介にもあるように、地域と一緒に支えていただき、伴走していただきながら、地域にも様々な形で活躍する機会を作っていただければと思います。そうした取組が出雲市全体に活気をもたらし、地域の役に立つものとなることを願っております。

この点について、どうぞよろしくお願いしたいと思います。どうもありがとうございます。

M 委員

計画については、大変緻密な計画を作っておられ、この短時間でここまで仕上げられたと、大変ご苦労されたのではないかと思います。

私は国際観光の担当をしておりますので、参考までに、今の数値目標、32 ページの「外国人宿泊客延べ数の目標数」についてお話しします。H 委員さんからも「目標値が高すぎるのではないか」というご指摘をいただきましたが、全国状況を見ますと、外国人が全宿泊者数に占める割合は、現在2割に達しようとしている状況です。東京や大阪では、月によっては5割を超え、半分以上が外国人という状況になっているというデータも出ています。

一方、島根県では、最も高い時でも外国人宿泊者が全宿泊者数の3%に留まっております。現時点（令和6年）では約2.3%で、少しずつ増えていくと予測されています。このような中で、出雲市さんが目指す2029年の外国人宿泊客3万人という目標は、全宿泊数の3%に相当し、実はそれほど高い数字ではないと思います。島根県の平均に近づけるこ

とが目的であり、県内にはさらに外国人宿泊率が高い地域もある状況です。

出雲市は、島根県の中でも特に宿泊者数が伸びている地域の一つで、今の取組を進めていくことで、この目標に向けて達成が見込まれると考えています。様々な動きがありますので、それに従ってこの目標も現実にも近づいていくのではないかと感じています。

また、この緻密な計画をいかに実行に移していくかが大事です。多くの市民の皆さんに計画を理解していただくことも重要です。他の委員さんからもご意見がありましたが、計画を実行する上で、市役所の方々だけでなく、今日ご参加いただいている委員の皆様が中心メンバーとして取り組んでいただくことを期待しています。

出雲大社を抱える出雲市は、観光の視点では島根県の中核とも言える存在です。観光客が訪れる人数においても圧倒的に多い地域であり、この出雲が盛り上がっていくことが、島根県全体の発展につながると考えております。

私たちとしても、引き続き連携を強め、一緒にこの出雲の地がさらに盛り上がっていくよう取り組みめればと願っております。よろしくお願いします。

副会長

皆さん、どうもありがとうございました。各委員の皆様から貴重な意見をいただき、私も皆さんのご意見一つ一つを敬服して聞いておりました。内容については、既に会長や事務局の方々と多くの議論を重ね、今日に至っております。概ねご理解をいただいたようで、大変ありがたく、嬉しく思っております。

個別の具体的な話ですが、以前、会長と副会長の私、そして事務局の一部の方と話した際にも、先ほども意見が出ましたが、この緻密な計画について、多くの方が理解しやすい形にする必要があると感じました。予算化していただけるなら、簡易なパンフレットのようなものを作成するのが良いかと思います。すべてを読み込んで理解するのは、市民の方にとって大変難しいでしょうから、索引等の分かりやすい資料が必要だと考えています。

また、観光業界の専門的なカタカナ語や外来語が多く使われていますが、多くの市民の方にとって理解しづらい部分もあると思います。そのため、そうした内容のフォローは、簡易版の方で分かりやすくしていただくのが良いのではないかと感じました。

さらに、以前のお話の中で出ましたが、守るべき資源や文化の継承と価値の再認識についてです。49、50 ページあたりに記載がありますが、人が訪れる場所というのは、古代から変わらず、きれいな場所、美味しいものがある場所、面白い場所、楽しい場所、心が癒される場所だと思います。たとえば、伊勢や熊野古道、奈良の大和路、京都や鎌倉の仏教文化、太宰府の文化、金毘羅さんなど、こうした場所があることで、近代の観光が大きく成り立ってきたのです。

そのときに、「またあの人に会いたい」「あの場所に行きたい」「あの風景にもう一度触れたい」という思いが、観光において非常に重要な要素を占めていると感じています。景観行政の底上げは、市として本気で取り組まないと、風致がどんどん失われていく危機にあります。松江市と比較しても、出雲市の風致・景観行政はまだ遅れをとっていると思います。

ますので、先ほどから多くの委員の方々が指摘されているように、観光だけでなく、景観の重要性も両輪としてしっかりと守っていただきたいと考えています。

さらに、文化財の価値も同様です。50 ページに記載されているように、事務局の方でも手入れが進められていると思いますが、日本に誇る弥生文化、日本に誇る四隅突出型墳墓の弥生文化、日本に誇るユニークな古墳文化、そして世界に類を見ない巨大神殿など、こうした古代の遺跡や文化は、日本国内でも大和や吉備、九州と並び称され、特異性を持っています。もっといえば群を抜いている可能性もあるわけです。こうした視点は、ぜひこの計画にも取り込んでいただきたいというのが、会長と私の意見でございました。

長くなりましたが、以上です。よろしくお願いします。

会長

どうもありがとうございました。

それでは、後半の委員の皆さまのご意見もいただきましたので、これについて事務局の方で検討していただければと思います。はい、ありがとうございました。

事務局

まず、人づくりやデータ連携についてですが、後半のお話の中で、また前半にも出ていたかと思います。冒頭のAアドバイザーからのお話もあったように、まず地域の人々、そして地域外の方々も含め、出雲市の発展に思いを持って取り組んでいただける方を発掘し、実際にその方々が活動できる体制を整えていきたいと考えております。

交通課題については、DMOがリーダー役となることを目指し、そのような課題を抱えていると考えています。今後、取組が進むよう推進してまいりたいと思います。

また、飛行機の件につきましては、55 ページのコラムにも少し記載しておりますが、繁忙期の予約が取りづらいという声が聞こえている状況です。今後、運用時間の延長が予定されていることもあり、さらなる利用者の増加が期待されます。航空会社からも新型機の導入が発表されているため、今後も引き続きこれらの課題について要望し、対応してまいりたいと考えています。

次に、食の魅力を高めるための記述が不足しているのではないかという点についてですが、私も同じように感じています。現在、食に関する取組は数年来、または10年単位で続いているものもありますが、それらを一旦しっかりと検証し、整理する必要があると考えています。そして、食に関わる関係者が改めて出雲の食材や食文化を生かし、食の魅力をさらに高めるために何ができるのかを検討することが重要だと思います。

具体的な施策は、現時点ではまだ見えていない部分もありますが、そうした研究も、有識者の皆様のお力を借りながら関係者とともに検討していきたいと考えております。

それから、リピーター率についてご指摘がございました。少し検討させていただきたいと思います。DMOの登録においては、リピーター率を掲げることが必須要件となっておりますので、その点との関係性もあり、重要な項目であることは十分承知しています。リ

ピーター対策について、進めていきたいと考えております。

ただ、関連して、出雲市単独でのリピーター率や観光消費額、経済波及効果が十分に取れていないという問題もあります。この数値目標については、出雲市の取組がダイレクトに反映された数字ではなく、県内全体での消費額や波及効果が把握されている状況でございます。この点については、38 ページの取組紹介の 3 点目に「市単独の消費額及び波及効果の算出が課題である」と掲載しております。私もぜひ知りたいと感じております。

ただ、出雲市の産業構成を見ますと、製造業の比率が高く、建設業も十分に裾野を広げている状況ですので、その中で観光産業およびその波及効果がどこまで大きいかというと、1 番や 2 番というほどではないと思われます。このような県内消費額からの波及効果の状況も確認しながら、今回ここまでの取組を進めてきました。

とはいえ、これらについて理解や説明ができるよう努め、皆様にこの分野に挑戦しようと思っただけのような説明を引き続き検討してまいりたいと思っております。今年度の計画完成までには間に合わない部分もあるかと思いますが、今後も課題として取り組んでいきたいと考えております。

それから、地域との協働についてですが、観光産業の推進は、やはり民間や地域の皆様一人ひとりの取組によって大きな推進力が生まれるものだと思っています。もちろん、その中で行政の役割も非常に重要ですが、出雲市内で民間や地域の力をもっと引き出し、地域内の一体感や連携力が高まるようにしていくことが重要だと考えています。この取組は非常に重要であり、現在、活躍されている多くの方々とのネットワークも広がってきている状況ですので、これを途切れることなく継続し、さらに発展させていきたいと思っています。

インバウンドの目標値については、「3%はそれほど高くない」ということを教えていただき、ありがとうございます。引き続き、さまざまな分析を行い、島根県さんとも連携し、より一層ご知見をいただきながら、お互いに情報を公開しながら進めていきたいと思っております。

簡易なパンフレットは必要だと考えておりますので、検討したいと思います。また、計画自体も一文字でも減らす努力やカタカナ語を減らす努力をしていきたいと思っています。あと一か月、粘りたいと思います。

また、景観行政の底上げについても同様の気持ちでおります。現在、景観計画に記載されている「景観を推進する地域」の取組が、計画策定以降、進んでいない部分があるのが現状です。この点を踏まえ、都市計画マスタープランを策定することになっておりますので、それを基に、さらに景観行政を推進していきたいと考えています。

それから、日本に誇る古代の遺跡文化についても、しっかりと力を入れていきたいと思っています。一旦、以上でコメントさせていただきました。ありがとうございます。

会長

はい、ありがとうございました。

アドバイザー3名の方に、それぞれ全体のご意見、またはこの計画に対するご意見をいただきたいと思います。

お一人あたり5分程度でおまとめいただければ、大変ありがたいです。お時間が少なくて申し訳ございませんが、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

C アドバイザー

はい。短めにお話しいたします。

まず、成功している事業についてですが、全国的に見て、交流人口と共に生きることを市民が共有できている地域はうまくいっております。昨年、資料でお話ししましたが、この点において出雲市は滋賀県と似ており、優良企業が多く、さらに現在人口も多い地域です。そのため、新しいサービス業については、天候にも左右されやすく、なかなか導入に躊躇する背景があります。他の地域と比較しても、その点がまず一つ大きな違いです。

また、現在Izumoto365プロジェクトでコンテンツ開発をお手伝いしており、現在約30～40件の案件が見込まれている状況ですが、場所もあり、素材もあるものの、それに対応してくれる人手が足りないという現状があります。しかし、少しずつ新規の案件も増えており、さらに10件以上増える見込みです。これからも掘り起こしていきたいと思っています。

その中で、出雲の新しいポテンシャルとして見えてきたものの一つに「アルベルゴ・ディフューズ」という考え方があります。これは、イタリアで街全体を宿とするような形で観光を考える手法で、既にご指摘いただいておりますが、出雲市でも、商店街全体を宿泊エリアとして考え、交流人口と共有するような形で展開できるのではないかと思います。

それから、「ウェルネスツーリズム」についても温泉と食、四十二浦の聖地巡り、そして「クラフトツーリズム」として、ものづくりの工房を訪れる体験など、この地域で十分実現できるものだと思います。

また、「アートツーリズム」も可能です。これは、築地松など歴史的な建物や博物館だけでなく、自然の中にアートを取り入れることで、建物も自然もアートとして捉える観光スタイルです。日本人だけでなく、世界から訪れる観光客にも十分に楽しんでもらえるのではないかと感じています。

最近では、茶道や和菓子といった伝統的なものを、ただ食べる、飲むだけではなく、ワークショップとして体験できる機会が増えています。実際に体験していただき、地域をさらに深く理解してもらうためのリーダー的な存在として、社会教育家が関わっており、単なるガイドではなく、しっかりと本物を伝えてくれる社会教育家の方が最近増えている状況です。一方で、旅行トレンドについてですが、「地球の歩き方」の中で、今日本人に特に売れているのは、テーマ型の旅行です。その中で、いわゆる「科学と学習」のような学びの旅が日本人の世代に広がっています。生涯学習を旅の中で実現したいというニーズが高まり、アクティブな体験型の旅行が非常に人気で、関連書籍もよく売れています。

こうした日本のトレンドは、海外の方も関心を持つ可能性が高く、出雲のポテンシャル

は十分にあるのではないかと感じています。出雲はそもそも日本人の心のよりどころでもあります、それに加えて体験を重視する「高まる旅」がこれから広がり、新しい形の「出雲旅」が生まれていくと期待しています。

事業計画についてですが、重要なのは「誰がやるか」という点です。最近よく言われるように、DMO化する際には、世界的なトレンドとしてサステナブルツーリズムが主流です。これは、まず住民本位であること、次に自然や文化の保護が重視され、最後に経済が付随するという考え方です。その中で、経済的には、自分の仕事がどのようにプラスに影響を受けるかが判断基準になります。したがって、開発型ではなく、持続可能な観光が主流となっており、出雲にも適した方針だと感じています。

最後に、ハザードシステムについてですが、特に山陰地方は陸の孤島になりやすい立地条件です。そのため、鉄道やライフラインの連携を深め、災害時の対応などを強化する必要があると考えています。

最後にどうしてもお伝えしたいことですが、「稼ぐ観光まちづくり」において、マーケティング集団を作っていく必要があると考えています。公益性や公平性を基盤にしつつも、収益性とスピード感を持った組織を形成しなければなりません。つまり、そうした組織を支える人材も育成する必要があります。モデレーター的な人材だけでなく、経営的な視点を持った人材を育てていくことが重要であるということをお伝えしたいと思います。以上です。

B アドバイザー

30 ページについてですが、「新しい出雲の発見」というこのタグライン、あるいはキャッチフレーズ、コンセプトについて、後ほどでもよいので、なぜこのコンセプトになったのか教えていただきたいと思います。

その後に続くタグラインで「住んでよし、訪れてよしの観光地づくり」とありますが、これこそが、私はしっかりと、まさに目指すべき将来像だと感じています。特に「新しい出雲の発見」という部分が、どういった観点から生まれたものなのか、ここで議論すると時間がかかりそうなので、後で教えていただければと思います。

それから、インバウンドの目標数字についてですが、先ほどから話題になっていますので、参考までに数字をご紹介します。例えば金沢市ですが、私もこの5年ほど担っており、インバウンドの動向を見てきました。特にフランス、イギリス、アメリカの市場に注力しており、この5年でどれだけ数字が伸びたかというデータがありますので、簡単にご紹介します。

2019年と比較して、2023年にはコロナ禍を挟んだにも関わらず、回復して大きく伸びた状況です。具体的にフランス市場では、2019年と比べて約8,000人泊増加しています。実際に来た人数としては約5,000人ほど増えたと考えられます。イギリスも同様に約7,000人泊増加しており、これも4,000～5,000人の人数増加に相当します。こうして数年計画で取り組むことで、1か国あたり4,000～5,000人の増加が実現できていますので、

今回の 2 万人から 3 万人増加という計画も、決して達成が難しい数字ではないと思います。

きちんとした戦略と効果的な戦術を持って取り組めば、実現可能な数字であると考えます。

あとはですね、その目標数値に対して、33 ページの戦略が A、B、C、D と体系的に分かりやすく整理されていて、良いと思いました。A のマーケティングの分析に基づいて、B、C、D と具体的なアクションが定められているのですが、その主要施策について、どんな活動を行い、どのような数値を達成すれば 32 ページの目標を押し上げることができるのか、ここで因果関係を整理しておかないと、この後、進捗管理が難しくなるのではないかと思います。

32 ページの最終目標（KGI）というのは、かなり先の話ですから、それまでの間に目の前の成果を着実に出し、皆さんに進捗を示しながら進めることが重要です。繰り返になりますが、32 ページの数値を達成するために 33 ページの施策があるわけですから、それにより毎年どの程度の数値が上がるのか、3 年、5 年ごとにマイルストーンを設定し、目指す成果を明確に整理していくと良いと思います。

それから、40 ページや 49 ページについてもお話ししたいことがあります。今後の「新しい発見」という話がありましたが、出雲という地域がどのような成り立ちでこのエリアが形成されたのか、景観という視点からだけでなく、地質や歴史の観点からひも解いていくことが重要だと思います。

海岸の自然景観が残り、中央山地や山間部があり、その間に挟まれた地域は、かつてラグーンのような地形だったと考えられます。海からの砂の流入や山からの大量の水によって湖が広がっていた時代があり、次第に陸地化していったという成り立ちを持っている場所です。この独自の地形から生まれた多様性のある景観があるからこそ、そこでの食文化や歴史文化もまたユニークで、さまざまなものが存在しているのではないかと感じています。

日本の観光振興は、歴史観光の面では発展してきましたが、自然観光については、まだ十分に磨かれていない部分があると思います。その自然観光を推進する上で、出雲は非常に優れた環境を持っているのではないかと感じています。

また、先ほど食の開発や掘り起こしが足りないという話がありましたが、地域の特性を見ていくと、その地域由来の固有の食文化も見えてくるのではないかと思います。ここをさらに深掘りしていくことで、新たなインプットが得られ、そこから新たな視点や発見が生まれるのではないのでしょうか。こうしたアプローチをしていくことが良いのではないかと思います。

すみません、時間が来てしまいましたので、このあたりで一旦終わらせていただきます。また必要なことがあればお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

A アドバイザー

自問していることですが、結局「観光とは何だろう」ということを自分に問いかけています。より良い形で次の世代に、文化や景観を引き継いでいくことではないかと思っています。

その中で、今日も地域経営の話がありましたが、出雲において「お金が先か、人が先か」という議論もあります。しかし、やはり稼げる地域にならないと人が集まらないのも事実です。現在、出雲市外、もしかすると島根県外に流出しているデータやお金を一部でも地元に戻し、それを再投資するという手法が地域経営の一つではないかと考えています。

また、情報発信などの取組も、この再投資の観点に基づいて進められています。再投資を行い、人を育て、さらに人を集めるという状況を、今の自分がやっている業務を通じて実現していきたいと考えており、それが今日のお話にもつながっていけばと思っています。ありがとうございます。

会長

はい。どうもありがとうございました。そうしますと、全体を通して、どなたでも結構ででございます。是非とも、これは言っておきたい、聞きたいというような方が、いらっしやいましたら、挙手の上、簡潔にご発言いただきたいと思います。

いらっしやいますか。

F 委員

さっき、Bアドバイザーがおっしゃった景観についてですが、出雲平野が今の形になったのは大体 100 年前くらいです。1600 年代ごろに、出雲平野にある宍道湖の方へ斐伊川が流れるようになり、それから出雲平野の範囲は大きく広がりました。

その際、木綿が植えられたことで「木綿街道」ができ、築地松の景観も形成され、たたらと呼ばれる経済活動が、斐伊川という自然を通して、下流域の景観や産業などを大きく変えていったのです。このような歴史的背景は非常に面白いと感じており、出雲だけでなく、斐伊川流域や奥出雲、雲南市などつながりがあることが分かります。

このように島根県の地図を上から見ると、地域間のつながりが浮かび上がり、多くの人に感動を与えるツアーや企画ができるのではないかと思います。それをお伝えしたかったです。

G アドバイザー

今ちょうど出していただいた 39 ページですね。この和歌山の熊野ツーリズムビューローの事例についてですが、これは私が推薦したものですので、説明させていただきます。このDMO（観光地域づくり法人）は「熊野トラベル」という旅行業も運営しており、今年には 9 億円の売り上げを記録しており、全国で 1 位です。

出雲観光協会でもこのような形があってもいいのではないかと思います。やはり自

分たちのお客様は自分たちでつかまえるという意思をしっかりと持っています。一方で、行政とも緊張感を持ちながら事業を進めており、スピード感や収益性を重視しつつも、公益性・公共性を行政とバランスよく保っています。

このように率先して事業を進めている集団ですので、もしご関心があれば、代表の方をご紹介することも可能ですので、その際はお声がけください。以上です。

会長

どうもありがとうございました。他にいらっしゃいませんかよろしいでしょうか。

そうしますと、大変ありがとうございました。

それでは、副市長、お願いいたします。最後のまとめをよろしく願います。

副市長

本日は貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。また、今回の計画について多くの賛同をいただいたかと思い、一安心しております。しかし、まだまだブラッシュアップや書き込み、分かりやすさの追求が必要な部分もあると思いますので、引き続き頑張ってまいりたいと思います。

先ほどの古代の遺跡や地形、地質に関する面白さなども取り入れたいと考えていますが、そうすると少し内容が増えますが、ぜひ追加したいと思っています。これが先ほどの風土や景観にもつながるものがあるかと思ひますし、アートツーリズムのシミュレーションの中で、美しさを生み出すといった要素にもつながってくるのではないかと思います。

今日のお話を通じて、何かイメージができてきたかなと感じております。

一つ、実は少し悩んでいるところがありまして、先ほどBアドバイザーからご指摘いただいた「新しい出雲の発見」というキーワードについてです。個人的には「これだ」と思っているのですが、少し分かりづらいというご指摘をいただいております。

もともと、このキーワードは、将来像として「周遊滞在型の観光を実現する観光地形成」を掲げるという考えのもと、第2回会議までは進めていました。しかし、「周遊滞在型観光」というのは結果であって、それをどう実現するか、あるいはそれによってどのような姿が地域にとって良いのかを考えた際に、やはり「住む人、訪れる人双方にとって良い」ということが必要だと感じました。

内容としては、出雲大社がそこにあるだけではなく、大社にまつわるさまざまな面白さや歴史、文化があります。また、出雲市内各地の素晴らしい価値や魅力を、住んでいる人も訪れる人も発見できるようにしたいと考えています。これは「地域の価値の再認識」という言葉も使えますが、今は知られていない価値を知ること、その人にとって「新しい発見」になるのではないか、つまり「こんなにも出雲には魅力があったんだ」という発見を提供したいと考えました。

個人的にはとても響く表現なのですが、分かりづらいとのご指摘もあり、少し悩んでお

ります。ご指摘もいただきましたので、再度、内部で検討し、次の会議に向けて考え直したいと思っております。多少の遅れが出るかと思いますが、よろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

会長

ありがとうございました。そうしますと、以上で私の進行をお返ししたいと思います。ご協力誠にありがとうございました。

事務局

会長、委員の皆様、ありがとうございました。本日の皆様からいただいたご意見や提案を踏まえ、事務局で修正した後、委員の皆様には再度計画案をお送りし、内容確認をいただければと思います。ご確認いただいたもので、市から議会への報告やパブリックコメントを実施いたしますので、よろしくお願いいたします。

それも含めて、今後のスケジュールでございますが、今日お配りしておりますレジュメの5番に書いておりますとおり、12月に出雲市議会での計画案を報告いたします。そして、12月13日から1月14日の予定でパブリックコメント募集を行います。その後、パブリックコメント等への修正対応を行いまして、次回の第4回戦略会議を1月29日に開催し、再度確認をいただいた上で、基本計画の完成といたします。

そして、その策定した計画を来年3月の出雲市議会へ最終報告したいと考えております。本日予定しておりました内容は以上でございます。以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

次回の第4回会議は、先ほども申しましたが、1月29日（水曜日）の14時から、同じ会場で行います。また時間が近づきましたら、別途ご案内をいたしますので、よろしくお願いいたします。

本日はご出席の皆様、どうもありがとうございました。

今後ともよろしくお願いいたします。